

# 婦人の目

友人のキリスト・イエススの宣教会のシスターが、一日、宣教師としてフィリピンへ旅だたれた。彼女のような人こそ、今の日本に、今の若者たちに必要だし、彼女と一緒に何か出来ると確信していただけに、私にとって彼女の出発は本当に痛かった。

しかし、私たちが道を作るのではなく、先立つのはイエス・キリストである。「彼らは行く」としていた村に近づいたが、イエスがなお先へ進み行かれるようすであった」(ルカ24・28)

イエスは、常にわれわれの前に立って、進んで行かれる。いつも新しい道、予期しなかった道が、自分の前にこ

## 予期しなかった道

のキリストによって開かれていく。いくつかのレディメードの、あるいは、自分の考えの中での人生計画の一つを私の人生として選びとるのではなく、イエスが前に進んでいかれることによって、自

分という一人の人間に、これが私の人生であるという風につかみとられ、発見される新しい道である。

その道に悩みながら、時に迷いながら、恐れながらも常に進んでいくそのシスターを

### 藤尾 紀子

見て、イエス・キリストの  
名を告白するということは何が本当であるのか、ということをはっきり見せてもらったような気がする。  
そして今、私の心の痛みは  
変わらないが、彼女の出発を

「これでいいのだ」と、考えるようになった。そして、彼女の出発を、主への賛美の心で見守った。私たちは共に主をあがめ、この喜びを愛に向かつて生きる、自分なりの賛美のささげものとしてささげよう。

愚痴をいわず、まいってしまわず、神の与えてくださる祝福を無にしないように、私たちを導いてくださいと神に祈る。私たちが主のなされるすべてのことを賛美しながら生きていけたら素晴らしいと思う。  
心からの尊敬と愛をこめて「行ってらっしゃい」と、声援をおくった。  
(主婦)